



天然記念物ネコギギ

はじめに

ネコギギは、伊勢湾や三河湾に流れ込む河川の中上流域に生息する夜行性の淡水魚です。「日本固有の動物で著名なものうち、学術上貴重で、我が国の自然を記念するもの」として、昭和52（1977）年に国の天然記念物に指定されました。

亀山市内でも以前はよく目撃されていましたが、近年はほとんど確認されなくなってしまいました。

ネコギギ保護への取り組み

亀山市内でも、平成19年度から平成26年度までに市内河川で実施した生息確認の調査により、鈴鹿川水系の極めて限定された場所に、わずかではあるもののネコギギが生息していることが確認されました。しかし、ネコギギが生息している河川の環境は変化しやすく、ひとたび大雨などが発生すると、土砂などの流入により住み家が奪われ、絶滅の危険性もあることが分かりました。

希少な魚であるネコギギを保護するためには、現在生息している箇所の生息環境の保全とともに、生息に適した環境が整った場所を拡大していくことが必要です。

ネコギギワークショップの開催

亀山市では、今年（平成27年）8月5日に野登小学校でネコギギのワークショップを開催し、地元の子どもたちなど約30人が参加しました。

ワークショップでは、まず亀山市ネコギギ保護指導委員会委員の岐阜経済大学教授森誠一さんのお話により、ネコギギの生態と保全について勉強しました。「ネコギギという名前は聞いたことがあるけれど見たことはない」という小学生がほとんどであり、興味深く先生のお話に聞き入っていました。

そのあと、安楽川（安坂山町池山）へ出向き、ネコギギが川の中でどんな暮らしをしているのかについて、実際に川の中に入ってみんなで学び、安心して暮らせるようにするにはどうすれば良いかを一緒に考えました。

ネコギギは岩や石の隙間を住み家に使っています。大雨により増水すると土砂などが流入し、隙間が埋まり住み家を失うこともあります。ワークショップでは、川原で塩化ビニル管と透明袋で水中メガネを作り、川の中でネコギギの住み家になりそうなところを探したり、お気に入りの石を探してネコギギのお家作りをしたりしました。



ネコギギワークショップの様子

おわりに

亀山市では、鈴鹿川水系に生息するネコギギをこれからも見守りながら、その保護とネコギギの生息に適した河川環境づくりに取り組んでいく必要があると考えています。

このようなワークショップを開催することにより、市内河川における天然記念物ネコギギの生息が広く市民へ周知され、ネコギギ保護への理解や環境保全の取り組みへの感心が高まることを期待しています。